



郷土史

ていね

第 102 号

平成 28 年 6 月 8 日

手稲郷土史研究会会報

平成 28 年 5 月 11 日定例会講演要旨

白石郷土館について

白石区ふるさと会 会長 武藤 征一様

① ふるさと会の歩みと活動について

- ・ 昭和 51 年に「白石区ふるさと会」が発足。「人情味と風格のあるまちを目指して」活動してきた。「白石区ふるさとまつり」「中学生の主張発表会」「白石でっち奉公」「国際交流」「環境学習・自然体験」「友好都市との交流事業」「まちづくりや社会貢献」などの活動
- ・ 白石郷土資料館の設立については、平成 17 年に期成会が設立されたことにはじまる。その後、設立場所や白石亭への要望等が区民や市との話し合いでまとまることができず、期成会が解散するということがあって、資料館の設立については、「ふるさと会」が引き継ぐこととなった
- ・ 平成 23 年、「ふるさと会」に「歴史文化委員会」をつくり、資料館の設立にむけて取り組むことになった
- ・ 資料館部会と催事事業部会を設けた。資料館部会では、資料収集、市内の郷土館等の視察を行い、資料館の構想検討協議
- ・ 催事事業部会では「宮城県古式鉄砲研究会」札幌分会の設立をはじめ、道内関係市町村の交流活動を確立することとした



② 資料館の設置を札幌市へ要望

- ・ 平成 24 年「ふるさと会」と白石区内の 8 連合町内会長が連帯して市長へ要望書。白石区複合庁舎整備が計画される中に、郷土資料館の設置を盛り込んでほしいと要望。うれしいことにその要望がかなえられて新白石区役所内に郷土資料館の設置が認められることになった
- ・ 平成 26 年には、資料館のスペースの増床願いがかない 7.4 m²となった。
- ・ **平成 27 年には、郷土館のあり方と展示についての考え方をまとめている。**
 - ◆ 誰でも気軽に見学できる
 - ◆ 白石の開拓がどのように始まり発展してきたか流れがわかるように

- ◆一度つくったらそれっきり、見学者もこないという 郷土館でなく、企画展、ミニ講習会など工夫する
- ◆書類を中心にした展示にする
- ◆小学生にもわかるように
- ◆白石村のはじまり（明治4年）から札幌村が札幌市と合併した昭和25年までの範囲を取り上げる
- ◆厚別地区と白石地区を区別しないなど



③『白石郷土館』の経過がおしえてくれたもの（手稲に伝えたいこと）

- ◎住民へのPR、主導、施設などを全て役所に頼ってもうまくいかない
- ◎設置場所は、歴史的な要所より、現在の区民の交通の要所であること
- ◎官民の協同事業となることを目指す
- ◎そのためには、オール手稲として結束をつくっていくこと

④ 片倉家臣の移住概略・

- ・明治3年、4年に幌別郡（鶯別、幌別、登別）へ70戸、272人、支配地とのことで自費移住。（13代目 片倉景範 開拓執事 日野愛喜）
- ・明治4年、5年開拓史貫属として官費による入植
貫属取締 佐藤考郷 三木勉
明治4年（望月寒）白石村104戸 380人
明治5年（発寒ベッカウス）手稲村47戸241人

⑤ 金額のこと

- ・5,050万円かかるとの見積もり。現在4,000万円くらいになっている
- ・今後の維持費も含めて考えている
（一年100万で10年分）
- ・企業と個人の寄付金による
- ・白石区では、一戸から300円の協力金を
- ・新区役所に寄付した人の記名版を入れることにした

（文責：菅原 直）

次回の予告

文芸サークル6月22日水

「関寛斎と樽川」

釣本会員宅（石狩市）

★★★★★★★★★★★★★★

定例会7月13日（水）

「北海道新幹線

について」

札幌市市民まちづくり局

手稲区民センター3F

訃報 川崎吉充さん亡くなる

5月21日手稲溪仁会病院クリニックで死去。昭和4年1月29日生まれ、享年88歳でした。4月28日クリニックに入院加療中「頑張る」と云う気丈な電話連絡を頂いたのが最後でした。川崎さんは、「前田農場」（駐輦記碑誌参照）「石狩尚古社」「薄野今昔」など次々と発表されました。その調査方法は、現地に足を運び、納得いくまで確かめると云う歴史学習の基本姿勢を教えてくださいました。ご冥福をお祈りいたします。

5/31 記 茂内義雄